

女性医師コーナー

やよい がつ せきべつ うた
弥生3月、惜別の詩

広島県医師会常任理事 有田 健一

明日が君の旅立ちの日だと思うと、何かしらじっとしていることができなくて、君を励まそうと散文に手を染める僕がいる。頭の中はドウドウと音を立てて書きたいことが流れているのに、紙の上にこぼれ出る僕の気持ちが、細切れの言葉のかけらに過ぎないのはどうしてだろう。6年も僕のそばで医師としてがんばってくれた君の旅立ちに、僕は戸惑っているのだ。どう送ればいいのか、緊張さえしている。笑顔の前に、感情が先行するのだ。僕は心からの感謝を君に伝えたい。こんなに患者に寄り添ってくれながら、決して音を上げることの無かった君に、僕は驚嘆してもいるのだ。

でも僕は君に謝らなければならないのかもしれない。僕は近視眼的な上司で、「職場での姿で、私の全てをみていると錯覚していたのでは?」ともし責められたとしたら、答える言葉を探すのにどれほど多くの時間を必要としただろう。そうなんだ、君には家庭があり、家族がいて、そこでは君は嫁であり、妻であり、娘であった。賢い君はこれを全てこなして、職場ではそれを感じさせることはない一人の医師であった。そんな君の賢さに触れることは、僕にとって君の磨かれた理性を感じて心浮き立つ瞬間であり、だからこそ僕は君のファンだと自称していたのだ。しかし考えてみれば、僕はその君の賢さに甘えていたのではないか。職場では見せなかった君の生活に、もっと思いを広げるべきだったのではないだろうか。もしそうだったのなら、

たのなら、日常に流れてしまう時間と出来事に感動を覚えなくなった結果として、どうぞ僕を許してほしい。いま、僕はやっとそのことに気がついたのだから。君はそのことに気づかない僕をみて、歯がゆい思いをしたこともあっただろう。そんな時でもそのことを心の中に封印して、僕に合わせて働いてくれた君の人となりと思うと、僕は君をいとおしく、そして気高くさえ感じるのだ。

僕の手の手平から飛び立った後は、ゆっくり周りを見回して、自分の飛び込む新しい環境を感じてほしい。これまでのあわただしい時間ではなく、もっと穏やかな自分の時間の流れを楽しんでほしい。そして君の人生を想ってほしい。そう、もうそろそろ子どもができたっていいんじゃないか。その時にはぜひ、母と子の顔を見に行くから、僕にも抱き上げさせてくれよ。君の賢さを受け継いだ幼子に頬擦りしながら、僕はこの6年間の心温まる思い出をきっと伝えよう。君によく似た幼子は、あふれる笑顔で答えてくれるに違いない。

君は凜として前を向き、そして出て行く。君の旅立ちを見送る僕は、寂然として立ち尽くす。まだまだ僕にはやることあるのだからと思ってみても、君が後にするこの部屋には不安という名の風が吹く。理由は要らないから、時には顔を見せてよ。君の顔を見て安心さえすれば、僕は落ちつくんだから。そしてそこから生まれる活力で、もう一踏ん張りしたいんだから。

女性医師のためのよろず相談

どんなことでも気軽にご相談ください。(再就職、再教育、子育て、保育施設等)
回答の返信先(Eメール、FAX番号、電話番号、郵送の場合は住所)を明記して下記に
ファクス又はEメールで送信してください。

あて先: 広島県医師会女性医師部会(学術研修課)

FAX番号: 082-293-3363

Eメール: gaku@hiroshima.med.or.jp